

製品名: KV3.1 ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab13165**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:50-1:200,ELISA 1:5000-1:10000
分子量	60kDa

抗原情報

遺伝子名	KCNC1
別名	KCNC1; Potassium voltage-gated channel subfamily C member 1; NGK2; Voltage-gated potassium channel subunit Kv3.1; Voltage-gated potassium channel subunit Kv4
遺伝子 ID	3746.0
SwissProt ID	P48547
免疫原	KV3.1 由来の合成ペプチド。アミノ酸範囲: 190-270

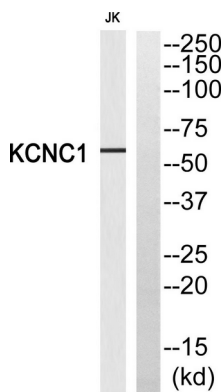
背景

この遺伝子は、興奮性膜の電圧依存性カリウムイオン透過性を媒介する膜貫通タンパク質ファミリーのメンバーをコードしている

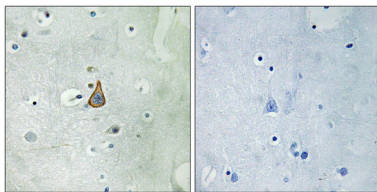
す。選択的スプライシングにより、C末端が異なるアイソフォームをコードする2つの転写バリエーションが生じると考えられています。これらのアイソフォームは、文献では相反する名称で呼ばれてきました。長い方のアイソフォームは「b」と「alpha」の両方で呼ばれ、短い方のアイソフォームは「a」と「beta」の両方で呼ばれてきました (PMID 1432046, 12091563)。[RefSeq 提供、2014年10月],ドメイン: セグメント S4 はおそらく電圧センサーであり、3つおきに正に帯電したアミノ酸の配列が特徴です。ドメイン: テールは、チャンネル活性の調節や、特定の細胞内コンパートメントへのチャンネルの標的化に重要な役割を果たす可能性があります。機能: 興奮性膜の電圧依存性カリウムイオン透過性を媒介します。膜を挟んだ電位差に応じて開構造または閉構造をとるタンパク質は、カリウムイオンが電気化学的勾配に従って通過するカリウム選択性チャンネルを形成する。類似性: カリウムチャンネルファミリーに属する。C (Shaw) サブファミリー。サブユニット: KCNG3、KCNG4、および KCNV2 とのヘテロ多量体。

研究分野

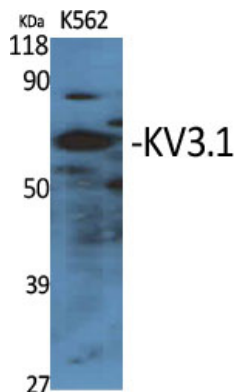
画像データ



KCNC1 抗体のウェスタンブロット解析。右レーンは KCNC1 ペプチドでブロッキングされている。



KCNC1 抗体を用いたパラフィン包埋ヒト脳の免疫組織化学染色。右レーンは KCNC1 ペプチドでブロッキングされている。



KV3.1 ポリクローナル抗体を用いた様々な細胞のウェスタンブロット解析

KV3.1 ポリクローナル抗体を用いた K562 細胞のウェスタンブロット解析

